

特38

9908



歸命無量壽如來
 南無不可思議光
 法藏菩薩因位時
 在世自在王佛所

御文章平假名附

改正
 眞字
 正信念佛偈御和讃

現世利益和讃

貼外九首御和讃

明治十七年十二月廿三日内務省文部 2/106



明治十九年十二月廿三日内務省交付

在	法	南	歸
世	藏	无	命
自	菩	不	无
在	薩	可	量
王	因	思	壽
佛	位	議	如
所	時	光	來

御文章平假名附

改正 正信念佛偈御和讃

現世利益和讃

貼外九首御和讃

超ちゆう發はつ希け有う大だい弘くわう誓せ
建けん立りつ无む上じやう殊しゆ勝しやう願げん
國こく土ど人にん天てん之し善ぜん惡あく
觀くわん見けん諸しよ佛ぶつ淨じやう土ど因いん

五ご劫けつ思し惟い之し攝せつ受じゆ
重じゆう誓せ名な聲しやう聞くわん十じふ方かう
普ふ放はう无む量りやう无む邊へん光かう
无む尋けん无む對たい光かう炎えん王わう

清淨歡喜智慧光
不斷難思無稱光
超日月光照塵刹
一切羣生蒙光照

本願名號正定業
至心信樂願為因
成等覺證大涅槃
必至滅度願成就

應信如來如實言
五濁惡時羣生海
唯說彌陀本願海
如來所以興出世

能發一念喜愛心
不斷煩惱得涅槃
凡聖逆謗齊廻入
如衆水入海一味

攝取心光常照護
已能雖破无明闇
貪愛瞋之雲霧
常覆眞實信心天

譬如日光覆雲霧
雲霧之下明无闇
獲信見敬大慶喜
卽橫超截五惡趣

一 切 善 惡 凡 夫 人
聞 信 如 來 弘 誓 願
佛 言 廣 大 勝 解 者
是 人 名 分 陁 利 華

彌 陁 佛 本 願 念 佛
邪 見 憍 慢 惡 衆 生
信 樂 受 持 甚 以 難
難 中 之 難 无 過 斯

印度西天之論家
中夏日域之高僧
顯大聖興世正意
明如來本誓應機

釋迦如來楞伽山
爲衆告命南天竺
龍樹大士出於世
悉能摧破有無見

宜說大乘无上法
證歡喜地生安樂
顯示難行陸路苦
信樂易行水道樂

憶念彌陀佛本願
自然卽時入必定
唯能常稱如來號
應報大悲弘誓恩

天親菩薩造論說
歸命无寻光如來
依修多羅顯眞實
光闡橫超大普願

廣由本願力廻向
爲度羣生彰一心
歸入功德大寶海
必獲入大會衆數

得とく至し蓮れん華くわ藏ざう世せ界かい
即すなはち證しん真しん如に法ぽう性じやう身しん
遊ゆ煩ぼん惱ごう林りん現げん神しん通つう
入に生じやう死し菌くわん示し應おう化くわ

本ほん師し曇どん鸞らん梁りやう天てん子し
常じやう向きやう鸞らん處こ菩ぼ薩さつ禮らい
三さん藏ざう流りゆう支し授じゆ淨じやう教けう
焚ぼん燒しやう仙せん經きやう歸き樂らく邦ぱう

天親菩薩論註解
報土因果顯誓願
往還廻向由他力
正定之因唯信心

惑染凡夫信心發
證知生死卽涅槃
必至无量光明土
諸有衆生皆普化

道 綽 決 聖 道 難 證
唯 明 淨 土 可 通 入
萬 善 自 力 賤 勤 修
圓 滿 德 號 勸 專 稱

三 不 三 信 誨 愍 懃
像 未 法 滅 同 悲 引
一 生 造 惡 值 弘 誓
至 安 養 界 證 妙 果

善ぜん導どう獨どく明めい佛ぶつ正しやう意い
矜けん哀あひ定ぢやう散さん與よ逆ぎやく惡あく
光くわう明めい名な號ごう顯けん因いん緣えん
開くわい入にふ本ほん願げん大だい智ち海かい

行ぎやう者しゃ正しやう受じゆ金こん剛かう心しん
慶けい喜き一いつ念ねん相さう應えい後ご
與よ韋ゐ提だい等とう獲かく三さん忍にん
卽じつ證ぢやう法ぽふ性じやう之し常じやう樂らく

報わう 專せん 徧べん 源げん 信しん 廣くわう 開かい 一いつ 代だい 教きやう
化け 雜ざ 歸き 安あん 養やう 勸くわん 一いつ 切せつ
二に 土ど 正しやう 辨べん 立りつ
執しやく 心しん 判はん 淺せん 深しん

極ごく 重じゆう 惡あく 人にん 唯ただ 稱しょう 佛ぶつ
我わが 亦また 在あ 彼か 攝しやく 取しゆ 中ちゆう
煩ぼん 惱なう 彰しやう 眼がん 雖すい 不ふ 見けん
大だい 悲ひ 无む 倦けん 常じやう 照しやう 我わが

本師源空明佛敎
憐愍善惡凡夫人
眞宗敎證興片州
選擇本願弘惡世

還來生死輪轉家
決以疑情爲所止
速入寂靜无爲樂
必以信心爲能入

唯わい道どう拯とく弘くわん
可か俗ぞく濟さい經きやう
信しん時じ无む大だい
斯す衆しゆ邊へん士し
高かう其き極ごく宗しゆ
僧そう同どう濁じやく師し
說せつ心しん惡あく等とう

初重
ななむむああままんんんん
むむああままんんんん
むむああままんんんん
むむああままんんんん



な ^下	な ^三	な ^下	な ^三
む	む	む	む
あ	あ	あ	あ
と ^下	と	と	と
ご	ご	ご	ご
仏	仏	仏	仏

彌^く陀^ぐ成^{じやう}佛^{ぶつ}のこのくハ

いまふ十劫とつたまなり

法^{ぽう}身^{しん}の光^{くわう}輪^{りん}さつもさく

下^か世^せの盲^{まう}冥^{めい}とてつてまあり

初重
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん

なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん

なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん
なむあまごん

智慧の光明
ちんちんちんちん
ちんちんちんちん
ちんちんちんちん
ちんちんちんちん
ちんちんちんちん

有量の諸相
しんしんしんしん
しんしんしんしん
しんしんしんしん
しんしんしんしん
しんしんしんしん

光曉のぬものハ
しんしんしんしん
しんしんしんしん
しんしんしんしん
しんしんしんしん
しんしんしんしん

上眞しん實じつ明めいにに歸き命めいせせよよ

なニ なニ なニ
む一 む一 む一
あ一 あ一 あ一
と一 と一 と一
ど一 どの どの
仏一 仏一 仏一

なニ
む一

童
あニ
と一
ど一
仏ニ

あにひあはごん
あにひあはごん
あにひあはごん
あにひあはごん

解脱の光輪きらり

光觸のあははな
有無とあるもの
上平等覺小歸命せま
なむあはごん

な	な	な	な
こ	ニ	に	、
ひ	一	一	一
あ	フ	フ	シ
	一	一	一
	ど	ど	ど
	三	三	三

光雲无寻如虚空

一切の有寻みさうりたる

光澤めらぬものごころ

上難思議と歸命せし

な	な	な	な	な	な
む	む	む	む	む	む
あ	あ	あ	あ	あ	あ
こ	こ	こ	こ	こ	こ
ご	ご	ご	ご	ご	ご
ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ

な	な	な	な	な
む	む	む	む	む
あ	あ	あ	あ	あ
こ	こ	こ	こ	こ
ご	ご	ご	ご	ご
ひ	ひ	ひ	ひ	ひ

なむあまごひ

清淨光明なむびあ

一 遇斯光のゆきなれを

一切の業繫ものごとくぬ

下畢竟依て歸命せよ

二 一 一 一 一 一 一 一 一

三 一 一 一 一 一 一 一

なむあまごひ

なむあまのぼん
なむあまのぼん
なむあまのぼん

佛光照曜寂第一

光炎王佛とらけり

三塗の黒闇ひらり
中大應供を歸命せよ

願以此功德平等施一切

同發菩提心往生安樂國

右六首引の勤行は在家の者の
毎朝暮ふらあるへからば三首引る
へ一寺がよの真の勤行を云と
あまごころに在俗のあめとあり
博士の大傑とあると其派ふりて
大小同一くかく異なり持高田派の
差別あり委の先入の人小倣へ

二道光明朗超絶せり

清淨光佛とほふすまら

ひとたひ光照かふるもれ

中業垢とのを解脫と

慈光るるふかぢらゝめ

ひらりひらりまもるるは

法喜とらとらものたまふ

中大安慰と歸命せよ

无明の闇を破るゆへ

智慧光佛となつけり

一切諸佛三乗衆

上もふ嘆譽はまふ

光明くわうめいてくたくきれん
入ふ不たん斷くわう光ぶつ佛ぶつとならづけらう
聞き光くわう力りきのゆへられる
上じやう心しん不ふ斷たんめて往じやう生じやうを

佛ぶつ光くわう測そく量りやうからしめゆへに
難なん思し光くわう佛ぶつとならづけらう
諸しよ佛ぶつハわ往じやう生じやう嘆たんトツ
下げ彌み陀たのく功くわう徳とくとならづけらう

神光の離相とらるるんが

无稱光佛とらるるんが

因光成佛のひろりをん

中諸佛の嘆むるもろかり

光明月日不勝過と

超日月光とならるる

釋迦嘆どくたなつてんが

上无等等と歸命せよ

彌陀初會の聖衆ハ

筆數のおよそ

淨土と稱する

下廣大會と歸命せよ

安樂無量の大菩薩

一生補處ふりるかん

普賢の徳ふ歸

申穢國ふかりん化すれ

十方衆生のためふとく

如來の法藏ありあてを

本願弘誓に歸せしむる

中 大心海と歸命せよ

觀音勢至のうらやま

慈光世界と照曜し

有縁と度しと考らるも

下 休息あるとかなうりけを

安樂淨土あんらくじゆどにいるひ

五濁ごじやく惡世あくせふかりて入る

釋迦牟尼しやくたにん佛ぶつのごとくまり

下利益げりやく衆生しゆじやうハまるもきり

四神しじん力りき自じ在ざいなるよう入る

則すなはちち量りやうまるてはらるがたりし

不ふ思し議ぎのとくをあらまりし

上じやう无む上じやう尊そんをかへり命めいせし

安樂聲聞菩薩衆

人天智慧

身相莊嚴

中他方に順て名を

顔容端正

精微妙軀非人天

虚无之身无極體

上平等力と歸命せよ

安樂國と修ふひと

正定聚にくと住まわれ

邪定不定聚らあかし

上 諸佛讚嘆したまへり

十方諸有の衆生ハ

阿彌陀至徳の御名と

眞實信心りたすん

上 ちるきふ所聞と慶喜せん

若わか不生ふ者しやのちるひゆ

信あ樂けまよふと見らる

一いつ念ねん慶けい喜ぎまるひ

中ちゆう往わう生じやうかゝるかゝるとてとてまゝまゝなりぬ

上あ安ん樂らく佛ぶつ土どの依あ正じやうハ

法ほふ藏ざう願げん力りきのななるるあり

天てん上じやう天てん下げににててなり

中ちゆう大だい心しん力りきとと歸き命めいせせよ

安樂國土の莊嚴えんらくこくとのしやうげん

釋迦无身しやくたあむしんのな

まゝとて

上无稱佛と歸命じやうむしんぶつときめいせよ

已今當の往生いこんたうのうじやうハ

この土の衆生のこのつちのしゆじやうのしやうじん

十方佛土じふぱうぶつとよりより

上无量无数不可計じやうむりやうむすうふくふかけいなり

阿彌陀佛の御名ときき
歡喜讚仰せしむるは
功德の寶と具足して
一念大利无上なり

たゞの大千世界に
みえらん火もすたゆま
佛の御名とききひく
上なき不退なるあり

神力无極の阿彌陀

无量の諸佛をめたまふ

東方恒沙の佛國より

中 无数の菩薩をめたまふ

六 自餘の九方の佛國も

菩薩の往觀をめたまふ

釋迦牟尼如來偈をめ

中 无量の功德をめたまふ

十方の无量菩薩衆

徳本うんたあたとく

恭敬さうしん歌嘆ま

中 中まひと婆伽婆と歸命ま

七寶講堂道場樹

方便化身の浄土あり

十方來生まひま

中 講堂道場禮まへ

神力本願及満足

明了堅固究竟願

慈悲方便不思議

中真无量と歸命せよ

寶林寶樹微妙音

自然清和の伎樂也

哀婉雅亮まぐまぐり

中清淨樂と歸命せよ

七寶樹林しちほうじゆりんくまらん

光耀くわうごうたかひふかやけり

華菓枝葉けがしえまろくちか

下 本願功德聚ほんがんくふくじゆと歸命きめいなま

清風寶樹しよふうほうじゆとみくちか

上 音聲おんせいの音聲おんせいひびく

官商和くわんじやうわしく自然じぜんなり

上 清淨しよじやう勲くんと禮らいまじ

相好さうこうごとくに百千ひゃくせんの

ひらりと十方じゅうぽうふあちくそ

法ほふの妙めう法ほふとらひらめ

衆生しゆじやうと佛道ぶつだうふらひらめ

ハ七寶しちぼうの寶池ぼうちのまきす

八功德水はつとくぐんすいちちり

无漏むろの依果いこ不思議ふしぎあり

上功德藏じやうとくぐんざうと歸命きめいせま

三塗苦難なるくもぢ

但有自然快樂音

このゆ安樂となづけたり

上无極尊と歸命せよ

十方三世の无量慧

如來乗とて

智圓滿道平等

攝化隨緣不思議なり

彌陀の淨土に歸しぬまハ
諸佛に歸するあり
一心をもちて一佛を
不むるハ无尋人となむらう

信心歡喜慶所聞
乃暨一念至心者
南无不可思議光佛
上頭面礼したてまつれ

佛ぶつ慧ゑ功く徳とくとありありあり

十じゅう方ほうのの有う縁ゑんふらふらん

信しん心しんををぞぞににええんんひひとと

上じやうははのの佛ぶつ恩おん報ほうがが一いつ

彌み陀た大だい悲ひのの誓せ願げんと

ああららままのの信しんぜんぜんひひんんままのの

ああららままののああららままののああららままのの

中
南なん无む阿あ彌み陀た佛ぶつとありあり

聖道門のひらき

自力のよさをひらき

他力不思議ふりぬれ

下義なきを義と信知せ

釋迦の教法よりゆき

修なき有情のなれば

末法に

上人もあらず

三朝淨土の大師等

哀慈攝受一なまひく

眞實信心すめめ

下定聚のふゆめめ

他方の信心るひとせ

うやまひあるはよりのびた

きあつちうが親友ぞと

中教主世尊へめたまふ

如來大悲の恩徳ハ

身と粉ふくも報

師主知識の恩徳

上
少極少少少少謝

現世利益和讃

十五首

阿弥陀如来化して

息災延命のためとして

金光明の壽量品

と記したるなりとの事

山家の傳教大師の

國土人民どもあまんとて

七難消滅の誦文あり

南无阿弥陀佛とまゝに

一切の功德ふすべし

南无阿弥陀佛と念ふ

三世の重朝と念ふ

かみどす縛じて輕微と念ふ

△南无阿弥陀佛と念ふ

この世に利益まはるべし

流轉輪廻のはらへん

定業中夭のぞかりぬ

南无阿弥陀佛と云

梵王帝釋歸敬す

諸天善神とくく

よひひるくわふふふふふ

南无阿弥陀佛と云

四天大王りらと云

よひひるくわふふふふふ

まろづの悪鬼とちがひす

南无阿弥陀佛とあり

堅牢地紙の尊敬す

かたがたの御心

よひつねのり

南无阿弥陀佛とあり

難陀改難大龍等

无量の龍神尊敬し

よひつねのり

南な无む阿あ弥み陀だ佛ぶつとてめよまじ

炎えん魔ま法ぽう王おう尊そん敬けいす

五ご道だうの冥めい官くわんとてめよ

まじりてめよまじり

南な无む阿あ弥み陀だ佛ぶつとてめよまじ

他た化くわ天てんのの大だい魔ま王おう

釋しゃく迦か牟む尼に佛ぶつののとてめよ

まじりてめよまじり

天神地祇へことしくく

善鬼神となづけたり

これらの善神をよめん

念佛のひとよめりあり

願力不思議の信心へ

大菩提心なりけん

天地ふみぐる悪鬼神

いふしごとくおそるなり

南みな无む阿あ弥み陀た佛ぶつとふまねが

觀くわん音おん勢せい至しのりつとふ

恒こ沙しゃ塵ちん數すうの菩ぼ薩さつと

かかげげののぎぎくくふふ身しんふふくくここ

无む尋じゆん光くわう佛ぶつののひひりりみみり

无む數すうの阿あ弥み陀たききくくそそ

化くわ佛ぶつたたののくくここごごくく

真しん實じつ信しん心しんととままののりりあり

四十八願成就す

正覺のあみごとあらたまふ

たのみごとかけ一人をみあ

往生かあらむまうぬ

極樂无爲の報土よを

雑行うまるとか

如來の要法をらびてぞ

専修の行をおもむ

兆載永劫の修行を

阿彌陀の三字はおまけ

五劫思惟の名号を

五濁のこれらに附屬せり

阿彌陀如來の三業と

念佛行者の三業と

かれこれ金剛心おれ

定聚のくらゐおまけ

多聞淨戒たもんじやうけい系けいららええれれまま

破戒罪業たけいざいごうききららええれれまま

たゞよく念ねん佛ぶつままるるののみみぞ

瓦礫かごりも金こんとと変へんどどけける

金剛堅固こんごうけんこのの信しん心しんを

佛ほとけのの相さう續ぞくよよううををここる

他力たうきのの方たう便べんななくくししててえ

いかでか決定けつぎやうのの心しんををままん

本願海ほんぐまんかいのうちよえ

智愚ちぐの波なみころあかうけう

弘誓くげん言ごんのふねよのうぬれを

大悲だいひ心しんのかせよまかせたり

超世てうせいの悲願ひぐまんをきこゝり

己おのれれらえ生しやう死じの凡夫ぼんぶかえ

有漏うろうの穢身ていしんかえらぬと

ころえ浄土じやうどよあそふあり

ろくたうぐせい
六八弘誓言のそのあかよ

だいさんどうご ぐせん
第三十五の願よ

あにど じよふじん
阿弥陀たことよ女人を

いんせう
引接せんそちかひしが

改悔文

或ハ領解文をもつふ

諸の雜行雜修自力のあらそめりて

て一心に阿弥陀如來我等ら今度の

一大事の後生御たもけりあしとて

のまじりてさうぬまのむ一念はまき

往生一定御たもけ治定とぞんじあし

の稱名ハ御恩報謝と接んてまじり

まうり候あ御とほり聴聞まうり
まうり候あ御とほり聴聞まうり

御開山聖人御出世の御恩次第相承比善

知識のあきからまうり御勸化の御恩と

何のぞくごんご候あ御とほり聴聞まうり

うせらる御おまうり一期とまうりま

りりまうりまうり候

太子七高僧御忌日

一 聖徳皇太子 推古天皇二十九年辛巳二月二十二日崩 四十九才安政四年己年延享二年百三十七年

二 龍樹菩薩 十月十日 道綽禪師 四月廿七日

三 天親菩薩 三月三日 善導大師 二月廿七日

四 曇鸞和尚 七月七日 源信和尚 六月十日

五 圓光大師 崇徳帝御治世十年長承二年癸丑四月七日御誕生 順徳帝御治世三年建曆二年正月廿三日御入寂 安政四年己年延享六年百四十六年

本願寺御代々御忌日

親鸞聖人

高倉帝御治世五年日兼安三癸巳年御降誕
御幼名 鶴滿丸

龜山帝御治世三年日弘長二壬戌年十一月廿六日
御入滅 御壽九十九才
安政四丁巳年迄五百九十六年

如信上人

正安二年庚子正月四日寂六十二才
大納言安政四丁巳年迄 五百五十八年

覺如上人

觀應元年辛卯正月九日寂八十二才
權大僧都中納言 五百 七年

善如上人

康應元年己巳二月廿九日寂 五十七才
權大僧都大納言 四百六十九年

綽如上人

明德四年癸酉四月二十四日寂四十四才
權大僧都 四百六十五年

巧如上人

永享十二年庚申十月十四日寂六十五才
權大僧都 四百十年

存如上人

長祿元年丁丑六月十八日寂六十二才
權大僧都中納言 四百年

蓮如上人

明應八年己未三月二十五日寂八十五才
權大僧都中納言 三百五十九年

實如上人

大永五年乙酉二月三日寂六十八才
權大僧都大納言 三百二十二年

證如上人

天文二十三年甲寅八月十三日寂三十九才
權僧正 三百四年

顯如上人

文祿元年壬辰十一月二十四日寂 五十才
權僧正 二百九十六年

西御門跡御代

西

准如上人
良如上人
寂如上人
住如上人
湛如上人
法如上人
文如上人

寬永七年庚午十一月三十日寂 五十四才
大僧正
寬文二年壬寅九月七日寂 五十一才
大僧正
享保十年乙巳七月八日寂 七十五才
大僧正
元文四年己未八月六日寂 六十七才
大僧正
寬保元年辛酉六月八日寂 二十七才
大僧正
寬政元年己酉十月二十四日寂 八十三才
大僧正
寬政十二年己未六月十四日寂 五十五才
大僧正
五十九年

東御門跡御代

東

本如上人
廣如上人
德如上人

文政九年丙戌十二月十一日寂 三十二才

教如上人
宣如上人
琢如上人

慶長十九年甲寅十月五日寂 五十七才
大僧正
萬治元年戊戌七月二十五日寂 五十五才
大僧正
寬文十一年辛亥四月十四日寂 四十七才
大僧正
百八十七年

ふつと念の信乃りて
事なりとて
聖人御とて一切の男女たゞん身ハ
弥陀の本願と信せき
くつととて
女入りて
の

の雑行とて念の弥陀如来今度乃
後生たもけり申さ人
八十人も百人も
往生す事
○

夫在家の尼女房たり人身なりぬの
もろく一心一向の阿弥陀佛とあうた
のまのせと後生 へまけたまへ
申さん人さぶさく御すすけあ
とちひさうさくへんさのひめ
くわぶさくへんさくち弥陀如来の

御ちさひの他力本願といひさうこの
うまかを後生のたまきへんさく此
嬉さ有がさと思ひた南无阿弥陀
佛くささるふさののたうあさう。

○

柳男子も女人を罪のあつて
諸佛の悲願となつてこのまゝの時分
ハ末代惡せりれハ諸佛の御あつて
ハ中ハあつて時なり是ハ阿彌
陀如來と申奉る諸佛より
惡五逆の罪人となつたまげんとす

大願とおとすまゝハ阿彌陀佛と
なり給つてこの佛とあつて
念御し候て申えん衆生と
たまひまげ正覺たしとちかひ
彌陀なりハ我等ハ極樂ニ往生せん
更ふらむ此ゆへに一向ハ阿

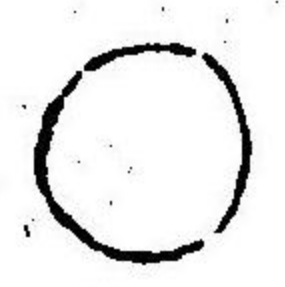
彌陀如來たまけ給てましく心まう
とまひなり信しく我身の罪乃ゆるぎ
事とらうちまき佛よまをほりて
一念の信心よましくんまゆるぎ十人
八十人まゆるぎ百人八百人かまゆるぎ浄土
よ往生まゆるぎ事よまゆるぎまゆるぎ

まゆるぎまゆるぎまゆるぎ
まゆるぎんまゆるぎんまゆるぎん南无阿
彌陀佛くときまゆるぎん所まゆるぎ
まゆるぎ念佛申べまゆるぎまゆるぎ
佛恩報謝の念佛と申なりあまゆるぎ

○
信心獲得もこの第十八の願とて
うらやみの願とてうらやみの南无
阿弥陀佛のまがひなきこと
のゆへに南无と歸命と一念のまが
ひ發願廻向のまがひなきこと

もち弥陀如來の凡夫の廻向も
もろろのまがひなきこと大經の
生功德成就もつげられ無始の
來つくりもつくりの悪業煩惱と
ところをなく願力不思議と
消滅するもつくりの正定聚不

退のつとめお住むとやうなれども
煩悩を断ずべしと涅槃を修め
るこのころなり此義ハ當流一途の所
談なるものをり他流の人に對して
乃ぞ沙汰あるべしとざる所なり能く
さういふはなほうあまもさく



抑當流の他方信心のおもむきを聴
聞して決定せしむる人こそあることの信
心を通ずると心底に打ちあせさく
他宗他人に對して沙汰さくが
路次大道こそさくの在所なりとあはれ

文明六年二月十七日書之



百骨
御文

夫人間の浮生なる相とつらく観るに
凡そこの世乃始中終なり
一期なりされば
万歳の人身と受けらるる事
一生すたや
たも百年の形骸と
我

白骨のまのくぬりつりまひるま中
 おろろやうらまふ人間のまのま事ハ
 老少不定乃まのひやまふたまの人も早
 後生の一大事と心まけく阿弥陀佛
 とふくたうまのまのま念佛ま
 ままのまのまのま

十

○
 是も一切の女人乃身ハ後生と大事に
 おの佛法とたふまのま心あ
 ちまのまのま阿弥陀如来とま
 たのまのまのまのまの雑行とま
 まのまのまのまのまのまの候と

ひと頼まん女人はうまへ極樂の往
生まふまらふとていあふとて
かやふまらふとて此後ハ
弥陀如来の御たまけよあづ
ま事のおつとて又たやまらふ
かく信ふとて極まらふとて南无阿弥

陀佛くと申へまらふとてこれ
信心とて念佛者とて申さる
なりあまら
○
夫當流開山聖人のうあたまら
の一流の中よあまらこれ勸化とて

よその不同ふたがの事ことあるまじく所詮よそ向後のちの
當山とうざん多屋坊主たふちぼうしゅ已下いげそのあり二卷にまきの聖教せいぎょう
とよまらん人も又來集またらひあひまの面々おもむきも各々おのづかに當
門下かどにその名なとつけんとしむるまじく
この三ヶ條さんかぎょうの篇目へんりくとりてこれと存知ぞんちせ
しめく自今じこん以後いごその成敗せいばいをわきまを

きものせり
一諸法しよほふ諸宗しよしゆももふあはせと誹謗ひぼうまじく
一諸神しよじん諸佛しよぶつ菩薩ぼさつとありしむべし
一信心しんじんと取とりて報土ほうど往生おんじやうとせむべし事
右斯みぎ三ヶ條さんかぎょうの音ねとありてありて心底しんぞ
たくましくされとありて本ほんとせむべし人ひと

にあらくハミの當山へ出入を停止せしむ
りてあらくもむくえんぬる文明第三の曆仲
夏乃頃より花洛とつてあはれしき年
七月下旬の候までふとの當山の風波あ
らき在所は艸菴をあらく此四年乃
あらく居住せしむる根元ハ別の子細

あはれハミの三ヶ條のすげとせしむる
北國由よしあらく當流の信心未決定乃人
をねあし一味の安心よあらき今迄のゆへ今日
今時きを堪忍せしむる所なりとせしむる
あらきあらく信用せしむる
との年月の在國の本意はあらき

一神明と申すはこれ佛法よあかく信も
ちき衆生のむすく地獄へおちんを
かかすもあましくあまをなす
すもすくをんごめくうきく神とあ
りれく縁とあつてな
りくしてはあき佛法よすめ入るん

ための方便ふ神くあつたき
きつてはあき佛法よすめ入るん
陀とあき信心決定して念佛をまじし
極樂へ往生き身とあつたき一切の
神明ハくくわら本懐となす
てよくつたき念佛の行者を守

本佛みぶつなるがゆへに阿彌陀あみだ一佛いつぶつに歸かへり
とてまづまづもろから諸佛しよぶつ菩薩ぼさつに歸かへり
まうそれのほがゆへに阿彌陀あみだ一佛いつぶつ乃
らちいに諸佛しよぶつ菩薩ぼさつはこれとくくも
みらるあり
久くえんえきん
一開山親鸞聖人のすめ給まうまうの

彌陀あみだ如來にょらいの他力たうりき眞實しんじつ信心しんじんとくもハも
ろくの雜行ざぎやうとまうく專修せんじゆ專念せんねん一向いこう
心しんに彌陀あみだに歸命かへんみんやるともく本願ほんがんと信しん
樂らくする身みとんこれハ先達せんたうよりくける
りうくまうく彌陀あみだ如來にょらいの眞實しんじつ信しん
心しんとくも他力たうりきよりまうけらる

まことの佛智此不思議なりとまこと
く一念と以て往生治定の時刻と
まことの命の自然と多
念よちぬ道理なりこれより平
生るとき一念往生治定の時乃佛恩報
盡の多念乃稱名とありふ所なりと

と祖師聖人御相傳一流乃肝要と
たのめ信心ひつふかぎありとこれとま
らざるはりて他門とてまことと
まこと真宗のまこと其外ありと
外相ふありて當流念佛者のまこと
と他人と對してありと

あまのりつと真宗乃信心と云々
行者乃あまのりつの本と云々
如件

文明六年 甲午正月十日書之

○
抑之御正忌のうららに参詣と云々

こころざしと云々 報恩謝徳と云々
とまりのく 聖人の御まゝはつと云々
のちうふあつと云々 信心と獲得せらる
人もあつと云々 不信心つと云々
あつと云々 のち乃大事なりと云々
ハ信心を決定せまゝと云々 今度の報土乃往

生ハ不定なりされバ不信の人もなぐや
うに決定乃らうとせむべし人間ハ不定
のさうひやく極樂ハ常住の国なりされ
を不定の人間よあらんよをも常住乃
極樂と稱ぐべきもれなりとせむを當
流への信心のこゝろもてせんとせられ

くら其ゆくと能くくつづからんあり
しきて安心決定して淨土の往生な
稱ぐべきなりとせむ人間ハ疏布して
ま人のこゝろにこそんかまの分
別もあへども稱名するなりとせむ
たらば極樂の往生もべしなりとせむなり

それハホカキミヤチヤウチヤウ次第ヤウ
他力の信心と云フモノ別ノモノ
あハ南无阿弥陀佛ノ六ノ字ノミ
ヤウ知ルモノモて信心決定キトム
ハヤウヤウヤウ信心の躰ト云フハ經
スツツ聞其名號信心歡喜ト云リ

善導の云ク南无ト云ハ歸命ヤウ
ミヤミヤ發願廻向の義ヤウ阿弥陀佛ト
云ハサカラその行ト云フ南无ト云
二字ノミヤハヤウヤウ雜行ト云フ
疑ハヤウ一心一向ハ阿弥陀佛ト云フ
ヤウヤウヤウアムヤウヤウ阿弥陀佛

とよ四の字れらうハ一び一弥陀と歸
命きる衆生とやうなちくたまひてま
るくまじがすまら阿弥陀佛の四乃字
れら何なりとされハ南无阿弥陀佛乃
躰をめぐのてくまらえりけりて
信びとまらハ一び一これまらハ他

力の信びとよくまら念佛乃
行者とらほりてまらハ一び一

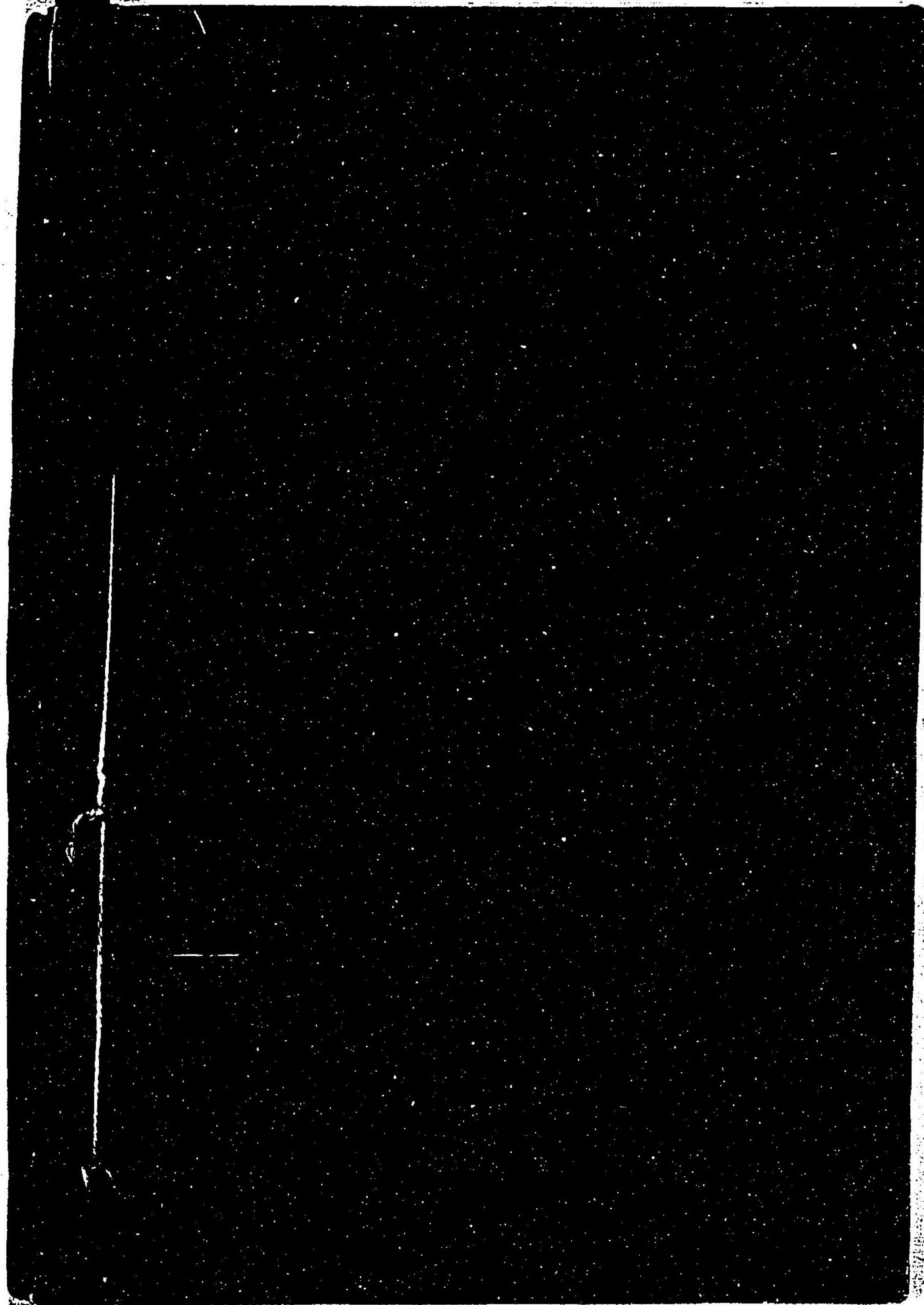
明治十九年六月廿一日出版御届
全 七月廿日 刻成 定價十二匁

編輯兼
出版人

富山縣士族

河上權藏

婦負郡富山船頭町
三十五番地



特38
998

018183-000-1

特38-998

正信念仏偈・御和讃・御文章

河上 権蔵 / 編

M19.7

ABF-1296

